

---

# 富士山・トイレ・世界遺産

## －富士山からの恵みの水を守る－

---

宮城大学 食産業学部 環境システム学科  
(前 静岡県立大学 環境科学研究所&大学院環境科学専攻)  
教授 岩堀 恵 祐

富士山は、日本一高い山であるばかりか、日本を代表する霊峰であり、日本人の心の支えでもあります。「静岡に住んでいれば、いつでも富士山が見られて羨ましい」とよく言われます。また、外国からのお客さんは全員、富士山を見たがり、富士山に登りたいがります。自家用車で新五合目まで連れて行ったことも度々ありました。

そんな富士山に相応しくないものの筆頭に挙げられるものが「富士山のトイレ」だったのではないのでしょうか。電気も水もない厳しい自然環境の中にあるのが富士山のトイレです。登山者が出したし尿を山肌に流すため、トイレトペーパーの一部が残って、遠くから見ると“白い川”に見え、近づくと臭うと、かつて登山家の田部井淳子さんが警鐘を鳴らしました。

この警鐘も契機になりましたが、「富士山総合環境保全指針」に基づき、平成 10 年度に静岡県環境部が「富士山トイレ研究会」を設置しました。図らずも私が委員長に指名され、「富士山に相応しいトイレはどうあるべきか」を調査・検討し、平成 14 年 1 月 23 日に石川嘉延知事に最終報告書を提出しました。

これを受けて、公衆トイレの役割を担う山小屋トイレの早期整備が図られ、平成 17 年度までに整備対象である 24 箇所全ての山小屋のトイレ整備が完了しました。また、富士宮口山頂にある環境省の公衆トイレも平成 17 年度にリニューアルしました。これで名実ともに、富士山に相応しいトイレが完備されたわけです。

平成 25 年 6 月 22 日、富士山のユネスコ世界文化遺産への登録が決定しました。正式名称は「富士山－信仰の対象と芸術の源泉－」です。日本が世界遺産条約を批准したのは平成 4 年（1992 年）ですから、富士山の登録には 20 年以上の歳月を要したことになります。この世界遺産登録には、富士山トイレ問題の改善が弾みになったと思います。

しかし、残念ながら、富士山トイレ問題が改善されたことは、あまり知られていません。そこで、“浄化槽フォーラム in しずおか”の場をお借りして、富士山トイレ問題の経緯と改善された現状について話題提供させていただき、皆さんの認識を新たにしていいただければ幸いです。

# 富士山トイレ対策の今後の方向

富士山トイレ研究会

